

AMEBRIETO N-ro 161

町田エスペラント会
Esperanto-klubo de Maçida



ZAMENHOFA FESTOのお知らせ

- 日時 12月9日(土) 午後1時30分~4時45分
- 場所 町田市生涯学習センター 6階 学習室3、4
- 内容 講演、歌、オカリナ演奏、ゲームなど
- 講師 堀 泰雄 氏 (群馬エスペラント会)
- テーマ「ホマラニスムと恩送り」

参加される皆さんは、自己紹介に合わせて、今、頑張っていること、熱中していることなどについてエスペラントで5~6つ(2~4でも)の文章にして発表してください。

忘年会

ザメンホフ祭終了後、午後5時30分より忘年会を行います。
参加希望者は永木までご連絡ください。

- 場所 シェ・プルミエ(ホテル町田ヴィラ内)
- 費用 4000円(ドリンク1杯付)



2017年11月

La donaco de la legluktado

UENO Yuriko

De morgaŭ (9/10, dimanĉe-9/24) komenciĝos la 47-a legluktado OOZUMOO, kiun s-ro Hori Yasuo iniciatis antaŭ ok jaroj. Kaj ĝi estas disvastiganta de homoj al homoj tra la mondo. Kompreneble la projekto ŝuldas la sukceson al lia granda laboro (lasttempe s-ro Hori okazigas la fakkunsidon por sciigi la gravecon de legado al esperantistoj kaj varbi partoprenantojn en ĉiu UK.). Mi partoprenis en la legluktado antaŭ ĉirkaŭ ses jaroj, influite de la geamikoj de la skajpo. Nun mi absorbiĝas pri legado de Esperantaj libroj. Kiel entuziasme? Samtempe mi legas kelkajn librojn, ekzemple la libron de Willam Auldo, Marjorie Boulton, Raymond Schwartz kaj Istován Nemere k.t.p. La librovendo de JEI ankaŭ efikis pozitive al mia entuziasmema sinteno por legado. Dank' al la kutimo de legado mi akiris pli riĉan vortoprovizon. Kaj tio estas utila por konversacio en Esperanto. Se la projekto ne aperus, mi ne akceptus al mi la kutimon de legado. Mi ege dankas s-ron Hori Yasuo kaj la prizorganton Monsano je NurEsperanta Kunvivado.

Mi aldonas la informon pri la forpaso de s-ino Marjorie BULTON, honore al ŝia granda merito. Ŝi jam fariĝis pasinta homo en la 30a tago de aŭgusto 2017. Mi tre bedaŭras ŝian forpason, ĉar mi simpatias al ŝia verkaĵo, la libro "Zamenhof", kiun ŝi verkis antaŭ 55 jaroj ne nur la biografion de Zamenhof, sed ankaŭ la ideon kaj historion de Esperanto. Mi nun legas ĝin kun granda emocio dum la period de OOZUMOO.

<Komentoj>

•Ĉi tio estas unu el paroladoj de la kunloĝado en Yatugatake, kiu ne trovis lokon en la lasta numero de AMEBRIETO.

前号に掲載できなかった八ヶ岳合宿での発表です。

•“Legluktado” estas speco de legado-konkurso de Esperantaj libroj.

エスペラント大相撲は、大相撲場所に合わせて、読む本と一日に何ページ読むかを自分で決めて15日間読むという自分の約束との闘いです。詳しく

は、<http://www.esperanto-sumoo.strefa.pl/index.html>

創始者の堀さんが12月のザメンホフ祭のゲストです。

(編集部)





柿谷 功さん 1938. 1. 28/ 2017. 9. 22 (享年 79 歳) 2009 年 4 月 当会加入



Estimata S-ro Kakija, la membro de Esperanto-klubo de Maçida, mi funebre salutas. S-ro Kakija komencis E-on antaŭ 10 jaroj kaj partoprenis en la kunloĝado en Jacugadake aktive kaj dirigente ĉiujare. Esperanto, kiu estas artefarita internacia lingvo, nun miliono da homoj parolas, 10 mil en Japanujo. Ni tre bedaŭras, ke s-ro Kakija mortis sur la vojo de sia deziro kaj intenco. Ni preĝas por la ripozo de lia animo.

Reprezentante Esperanto-klubo de Maçida, Kijima salutas.

※9月26日、日本ルーテル告白教会で行われた「お別れの会」において木島さんがエスペラントで弔辞を述べられました。

柿谷功さんとの交遊

久場俊男

柿谷さんとは30年来の合唱の仲間であり、10年来のエスペラント仲間であり、私のパソコンの先生でした。家が近いせいもあり、飲み仲間でもありました。ある時、私がエスペラントをやっていると話したところ、彼が薄い参考書をもってきて、前から関心を持っていたと言って、それから火曜日の勉強会に参加していました。彼はNHKの技術系の職員でしたので機械や電気のことに精しく、講習会や八ヶ岳の合宿では大いに助けられました。合宿ではハイキングの計画を立てたり、飲み会では彼と木島さんと私がいつも最後まで残りました。彼は一見寡黙でしたが、博学で、アルコールが入ると独壇場でした。昨年、奥様がくも膜病で倒れてから介護のため勉強会には来られなくなりました。今年の8月3日に熱中症で倒れ、脳梗塞症を発症し、南町田病院で1カ月半治療しました。最初に見舞いに行ったときに後遺症が残ると感じましたが、最後は自宅に戻り平穏死を選ばれました。



お別れ会は何人来るか予測がつきませんでした。当初は30人と予想していて、プログラムを40枚準備しましたが、参加者は54人でした。遺影はワイングラスを片手に、ワインのビンも写っている写真でしたが、いかにも柿谷さんにふさわしい写真でした。

※町田エスペラント会から久場さんを含め9人の方がお別れ会に参加しました。

鳥居 房子



柿谷さんが倒れたと聞いた時から、現代の医学により必ず復活なさると信じていたので、こんなに早くお別れすることになるとは…。ご葬儀に出ることができなかつたために余計に現実感がありません。飄々として博学な柿谷さんの楽しいお話を、もう聞けないことがとても淋しいです。只々ご冥福をお祈りするばかりです。

永木 正子

柿谷さんが町田エスペラント会に入られたころは、私はまだ火曜日の学習会に参加していませんでしたので、初めてお目にかかったのは、たぶんその年の9月の八ヶ岳合宿だったと思います。合唱団や趣味仲間とのお付き合いでお忙しい中、総会を始めアムーザクンペーノ、八ヶ岳合宿、ザメンホフ祭と主な行事にはほぼ毎回参加されていました。特に、インターネットや機械系に強く、2011年のザメンホフ祭で行われた木村さんの講演内容をCDにして希望者に配布したり、メーリングリストやホームページの開設にその能力を十二分に発揮していただきました。

エスペラントの学習にもインターネットを活用されていて、いろいろな教材を提供してくださいました。ラジオ放送を聴くアプリやエスペラント関係のサイトを紹介してくれるのは良いのですが、「やさしい作文」の課題をGoogle翻訳を使って意味不明の文章を作ってきたときには、さすがにそれはないでしょっと皆で笑いしました。

また、2011年度からは早川さんと共に AMEBRIETO の編集にも加わっていただき、それまで一人で行ってた負担が軽くなってとても助かりました。

アルコールが入ると饒舌になり、エスペラントを広めるにはどうしたらよいかなど非常に興味深い話もたくさん聞かせていただきました。特に奥様との話はまるで落語を聞いているようで、なんでも笑いに変える話術をお持ちでした。

飄々としていて物事に執着しない柿谷さんらしい人生の終い方だったのかもかもしれませんが、町田エスペラント会のためにまだまだお力をお借りしたかったのに残念です。

きちんとお礼も言えていませんでした。いろいろありがとうございました。安らかに眠りください。



柿谷さんを偲んで

明石 芙美子

池の傍でワイン片手に、にこやかに語りかけている彼の声が聞こえそうな柿谷さんの遺影にお目にかかって、突然のお別れがなんとも信じがたく今日に至っています。

10年くらい前に、久場さんのご紹介で町田エスペラント会に入会され、コンピューターのエキスパートとして、いろいろな会合で、大変大きな力を発揮してくださいました。学習面では、世界のいろいろな場所で行われているエスペラント語での会合の様子を聞かせてくださり、聞き取りがなかなか難しい私たちに、内容をコピーして下さったり、いろいろ努力をしてくださったのですが、私たちのエスペラント語理解力不足で続かず最終的には、“Novaĵoj Hokitaj de Okita” の記事の中から何篇か選んでコピーして下さり、みんなで読み合っ、話し合ってきました。1年位前に奥様が倒れられて出席ができなくなり、現在は、永木さんが受け継いでくださっています。その他八ヶ岳の合宿では、遠足の企画を担当して下さったり、オカリナの演奏にも参加して下さり、二次会では豊富な知識で、みんなを楽しませてくださいました。あちらの世界で少し落ち着かれたらきっと天の風になって、私たちの様子も見に来てくださるのではないかと期待しています。ご冥福をお祈り申し上げます。



河合 計井子

柿谷さんとこのように早い別れになるとは考えもしませんでした。

ひただまり荘の勉強会に来られたのが10年前。音響関係、PC等、IT機械に強い方でした。柿谷さんのお陰で、海外からのエスペラント放送を一緒に聴き、歌も聴きました。そして、毎週、海外版笑い話、日本での最新ニュースをプリントアウトして持参され、それをテキストにして学びました。楽しい時間でした。

短い時間でしたが、心よりお礼申し上げます。



柿谷さんの思い出

上農 百合子

柿谷さんの思い出はどれも町田エスペラント会の会合にある。木村護郎さんのドイツ留学前の壮行会に参加したときにより親しみを感じるようになったことを今でもはっきり覚えている。そのことから柿谷さんのパソコンなどの機器類に関する高い能力を町田エスペラント会のために使ってもらえるようお願いすることができた。ホームページの作成、メーリングの設定などなど、です。おかげで会員の意見交換や交流がスムーズにできるようになった。ザメンホフ祭、アムーザクンペーノ、八ヶ岳合宿などの行事は柿谷さんなしには十分な成果はなかったにちがいない。

インドネシアの青年を町田に招待した時に、私は個人的にその会合での機器類の操作をお願いしたことがある。柿谷さんがいないとうまくいかないのでよろしくお願いま

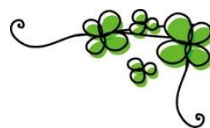
す、というものであった。不思議なことに、それからどんな会合でも、気軽に会合に参加し、助けてくれた。自分のパソコンなどを持ち込んでくれたこともある。八ヶ岳エスペラント館での合宿でもタブレットを使ってスカイプができるようにもしてくれた。パソコンをプロジェクターにつなぐことなどはとても簡単な作業だったようだ。

八ヶ岳エスペラント館の運営委員のなり手がなく、ということをお話すると夏休みの間の泊りのお手伝いを引き受けてくれたり、宿泊数を増やしたいということをお話すると俳句の仲間を連れて宿泊をしたり、とずいぶん、協力もしていただいた。運営委員に手を挙げてもらったが年齢制限があり、残念ながら実現しなかった。

また、会合の場で、エスペラントは世界中の人が理解できるのだから、空港などの案内はエスペラントの表記を併記するのを提起してはどうかとの提案はその時の私には突拍子もないことに思えたが、最近、同じことを言った方がいる。人生の先輩が同じことを言ったので、優れた人は考えることも先に行く、と感慨を深くしたものである。

いつも笑顔で、その奥には優しさがあふれ、そして発想豊かであった柿谷さん。お別れは私にとって悲しくてつらいものになった。

謹んでご冥福をお祈りいたします。安らかにやすみください。



縁の下の力持ち

木村護郎クリストフ

柿谷さんは、機械類に強いことでも頼りにされ、本会では、まさに縁の下の力持ち的存在でした。ひょうひょうとした柿谷さんの笑顔がもう見られないと思うと、心にぽっかり穴があいた気持ちになります。久場さんのご尽力のおかげで、故人にふさわしい、音楽に満ちたお別れ会をもつことができたことは、ありがたいことでした。

編集後記

☆ 今号は、9月22日に逝去された柿谷功さんへの追悼文を掲載しました。柿谷さんの人柄や活動の一端をお伝えできたのではないかと思います。原稿をお寄せいただいた皆様ありがとうございました。人は亡くなっても、覚えている人がいる限り、その人の心の中で生き続けていると言ったのは、永六輔さんですが、合宿や飲み会の折々に亡くなられた方々の思い出を語り続けていきましょう。(M)

☆ 次号の発行は1月の予定です。担当は早川さんです。